

2018年2月期 第1四半期 (2017年3月1日～2017年5月31日)

決算説明資料



© 2017「打ち上げ花火、下から見るか？横から見るか？」製作委員会

2017年7月18日(火)



東宝株式会社

阪急阪神東宝グループ

2018年2月期 第1四半期 営業概況

	2017年2月期 (2016年3月～5月)	2018年2月期 (2017年3月～5月)	前年同四半期比	増減率
営業収入	57,797百万円	71,002百万円	13,205百万円	22.8% ↑
営業利益	12,821百万円	17,440百万円	4,619百万円	36.0% ↑
経常利益	12,894百万円	17,578百万円	4,684百万円	36.3% ↑
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8,708百万円	12,163百万円	3,454百万円	39.7% ↑

【第1四半期の営業概況】

主力の映画事業において、2年連続のシリーズ新記録となった『映画ドラえもん のび太の南極カチコチ大冒険』『名探偵コナンから紅の恋歌（ラブター）』等の定番のアニメ作品をはじめ、東宝東和配給『SING／シング』『ワイルド・スピード ICE BREAK』や他社洋画作品も高稼働。『シン・ゴジラ』のパッケージ・ソフトの売り上げも業績に貢献。

演劇事業では『Endless SHOCK』や『レ・ミゼラブル』などの話題作が連日の盛況となり、好調。

不動産事業も所有物件の順調な稼働や、スバル興業による道路事業の好調な業績により堅調に推移。

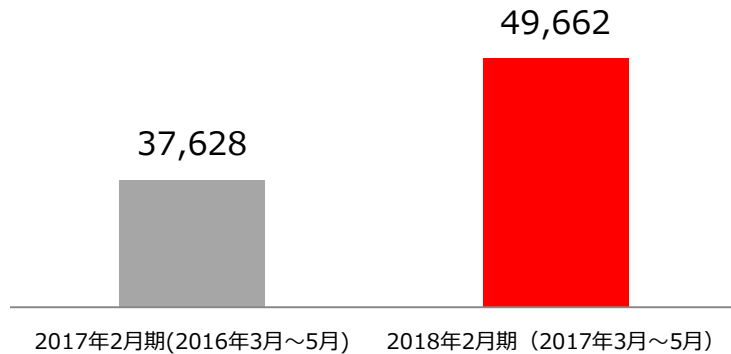
その結果、第1四半期決算としては営業収入、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益の各段階で過去最高を記録し、前年同四半期比で大幅な増収増益を達成。

セグメント別業績一覧

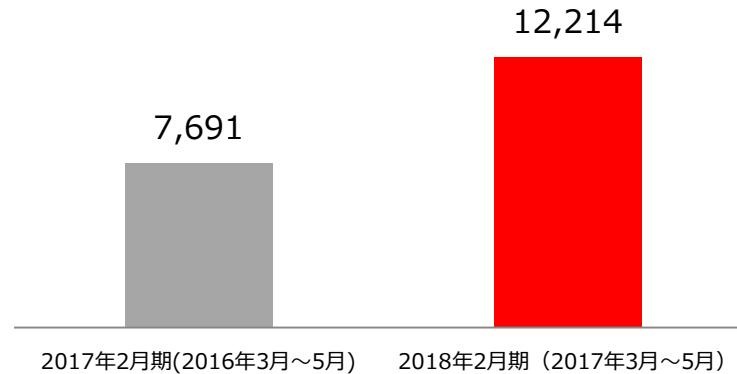
	営業収入 (単位: 百万円)			営業利益 (単位: 百万円)		
	2017年2月期 (2016年3月~5月)	2018年2月期 (2017年3月~5月)	増減率(%)	2017年2月期 (2016年3月~5月)	2018年2月期 (2017年3月~5月)	増減率(%)
①映画事業	37,628	49,662	32.0% ↑	7,691	12,214	58.8% ↑
映画営業	12,086	15,306	26.6% ↑	3,239	4,308	33.0% ↑
映画興行	18,787	23,847	26.9% ↑	2,978	4,993	67.7% ↑
映像事業	6,754	10,508	55.6% ↑	1,473	2,912	97.6% ↑
②演劇事業	3,196	3,745	17.2% ↑	696	1,110	59.3% ↑
③不動産事業	16,731	16,563	-1.0% ↓	5,230	4,949	-5.4% ↓
不動産賃貸	8,185	7,535	-7.9% ↓	3,810	3,264	-14.3% ↓
道路事業	5,904	6,526	10.5% ↑	1,160	1,464	26.2% ↑
不動産保守・管理	2,641	2,501	-5.3% ↓	258	221	-14.6% ↓
④その他事業	241	1,031	327.2% ↑	34	48	39.7% ↑

セグメント別業績【映画事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 映画営業事業では、『名探偵コナン から紅の恋歌(ラブレター)』が興行収入67億円を超え、シリーズ記録を更新。また、『映画ドラえもん のび太の南極カチコチ大冒険』も興行収入43億円を超えて新シリーズ新記録となり、主要アニメ作品が2年連続で記録を更新し業績に貢献。『帝一の國』、『ひるなかの流星』等の実写作品も堅調に推移。東宝東和配給作品は『SING／シング』が興行収入50億円を、また『ワイルド・スピード ICE BREAK』が興行収入40億円を超え、前期を上回るヒットに恵まれ、増収増益。(興行収入は6月末時点)
- 映画興行事業では、好調な東宝・東宝東和作品に加えて、洋画では2月から続映の『ラ・ラ・ランド』(ギャガノポニーキャニオン配給)が興行収入42億円を、『モアナと伝説の海』(ウォルト・ディズニー配給)が興行収入51億円を超え春休み興行の中心となるヒットを記録。また『美女と野獣』(ウォルト・ディズニー配給)が興行収入119億円超の大ヒットでGWを大きく牽引し、増収増益。(興行収入は6月末時点)
- 映像事業では、アニメ製作事業において『名探偵コナン から紅の恋歌(ラブレター)』等の出資作品が好調、出版・商品事業ではアニメ作品を中心にパンフレット・グッズの売上が順調に推移。パッケージ事業では3月に『シン・ゴジラ』のBlu-rayとDVDを発売し、好調な売れ行きで、増収増益に大きく貢献。

映画 —主要稼働作品—

当社配給作品（興行収入10億円以上）

作品名	公開月	興行収入
『名探偵コナン から紅の恋歌（ラブレター）』	2017年4月	67.7億円
『映画ドラえもん のび太の南極カチコチ大冒険』	2017年3月	43.8億円
『帝一の國』	2017年4月	18.8億円
『映画クレヨンしんちゃん 襲来!! 宇宙人シリリ』	2017年4月	15.9億円
『ひるなかの流星』	2017年3月	13.4億円
『チア☆ダン～女子高生がチアダンスで全米制覇しちゃったホントの話～』	2017年3月	12.8億円
『追憶』	2017年5月	10.9億円

※2017年6月末時点

東宝東和配給作品（興行収入10億円以上）

作品名	公開月	興行収入
『SING／シング』	2017年3月	51.0億円
『ワイルド・スピード ICE BREAK』	2017年4月	40.3億円

※2017年6月末時点



©2017 青山剛昌／名探偵コナン製作委員会



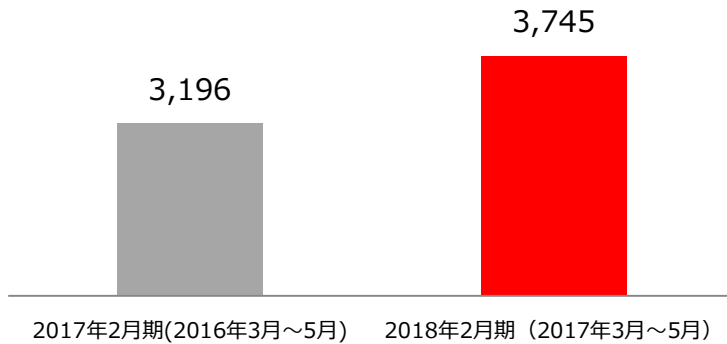
©藤子プロ・小学館・テレビ朝日・シンエイ・ADK 2017



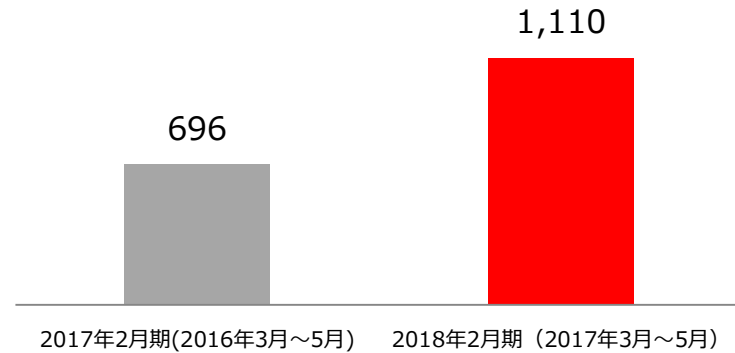
©Universal Studios.

セグメント別業績【演劇事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 帝国劇場では『Endless SHOCK』(3月公演)が全席完売、再演の『王家の紋章』(4月～5月公演)も大入りとなり、日本初演30周年記念公演となった『レ・ミゼラブル』(5月公演)は、満席となる大盛況。
- シアタークリエでは『キューティ・ブロード』(3～4月公演)が好調に推移し、『ジャニーズ銀座2017』(4月～5月公演)が全席完売と好調に稼働。
- その他、日生劇場での『紳士のための愛と殺人の手引き』(4月公演)、『グレート・ギャツビー』(5月公演)が堅調。また、EXシアター六本木での『あさひなぐ』(5月公演)は映画化(9月22日公開 映像事業部配給)に先駆けた舞台化という初めての試みに挑戦。既存の演劇の枠組みを超えた新たなラインナップの開発に努め、成功を収めた。明治座・博多座の『細雪』(3月～4月公演)や梅田芸術劇場の『王家の紋章』(5月公演)等の外部公演も高稼働し、演劇事業全体として、大幅な増収増益を達成。

演劇事業 — 主要稼働作品 —



2017年3月 帝国劇場公演
『Endless SHOCK』



2017年4月～5月
帝国劇場公演
『王家の紋章』

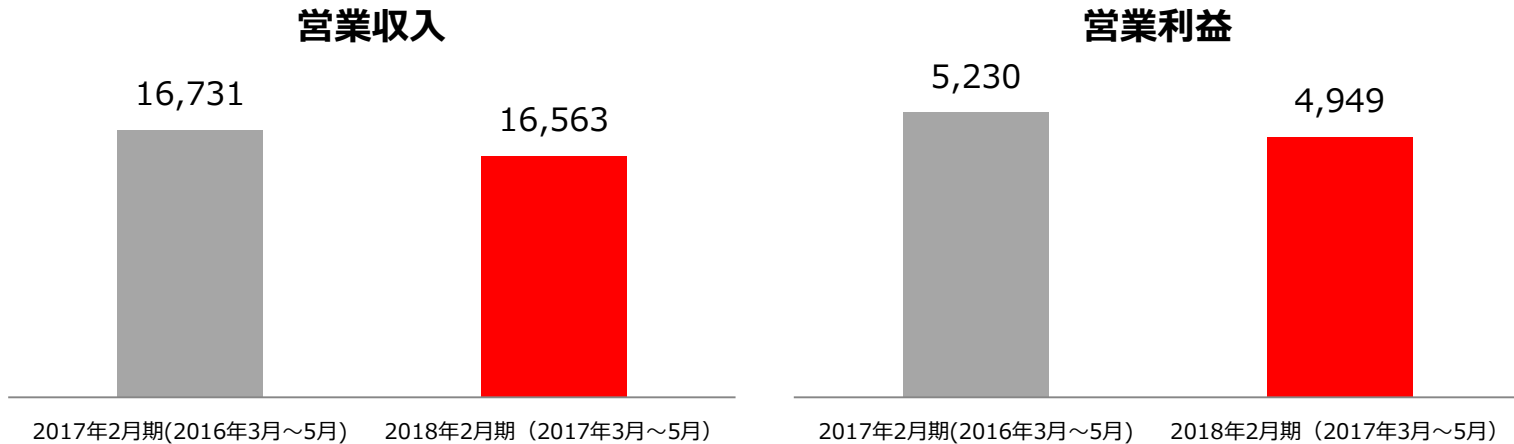


2017年5月
帝国劇場公演
『レ・ミゼラブル』



2017年3月～4月
シアタークリエ公演
『キューティ・ブロンド』

セグメント別業績【不動産事業】



(単位：百万円)

業績分析（増減要因）

- 不動産賃貸事業では、本年3月1日付で東宝不動産(株)を吸収合併し、両社が保有する不動産物件を一括管理し、業務効率化とシナジー効果を発揮できる組織基盤を確立。全国の賃貸物件はほぼ空室なく順調に稼働したものの、福岡市の「天神東宝ビル」の再開発着工に伴う償却費の増加等により、減収減益。
東宝スタジオは、当社配給作品の撮影やTV・CM撮影の誘致によりステージレンタルが順調に稼働。
- 道路事業では、スバル興業(株)が道路の維持・補修工事で積極的な営業活動による新規受注に努めるとともに、原価管理などの業務の効率化等を進めて収益性向上に努めた結果、増収増益。
- 不動産保守・管理事業では、(株)東宝サービスセンター、東宝ビル管理(株)が労務費や資材価格の高騰など厳しい経営環境が続く中、新規受注の開拓とコスト削減に取り組み、堅調に推移。

映画 & 演劇 話題の待機作品



MOVIE LINE UP



2017年7月28日（金）ロードショー

180万部を超えるベストセラー小説「君の臍臓をたべたい」＝「キミスイ」が、この度待望の実写化！誰もが想像できない結末と、タイトルに隠された本当の意味を知った時、あなたはきっと涙します——。

『君の臍臓をたべたい』

原作：「君の臍臓をたべたい」（住野よる／双葉社刊）

監督：月川翔

出演：浜辺美波 北村匠海／北川景子 小栗旬

主題歌：Mr.Children「himawari」(TOY'S FACTORY)

©2017「君の臍臓をたべたい」製作委員会 ©住野よる/双葉社



2017年8月18日（金）ロードショー

花火が上がるとき、少年と少女の恋に奇跡が起きる——。

最高峰のスタッフに加え、広瀬すず・菅田将暉ら豪華声優陣で贈る、珠玉のアニメーション作品。

『打ち上げ花火、下から見るか？横から見るか？』

原作：岩井俊二 脚本：大根仁 総監督：新房昭之

声の出演：広瀬すず 菅田将暉 宮野真守／松たか子

主題歌：「打上花火」DAOKO×米津玄師 (TOY'S FACTORY)

©2017「打ち上げ花火、下から見るか？横から見るか？」製作委員会



2017年8月26日（土）ロードショー

司馬遼太郎原作、累計部数620万部超の“国民的ベストセラー”、初の完全映画化！

「愛」と「野望」、激突！日本の未来を決した、わずか6時間の戦い。誰もが知る「関ヶ原」の誰も知らない真実——。

『関ヶ原』

原作：司馬遼太郎「関ヶ原」（新潮文庫刊）

監督・脚本：原田真人

出演：岡田准一 有村架純 平岳大 東出昌大／役所広司

©2017「関ヶ原」製作委員会

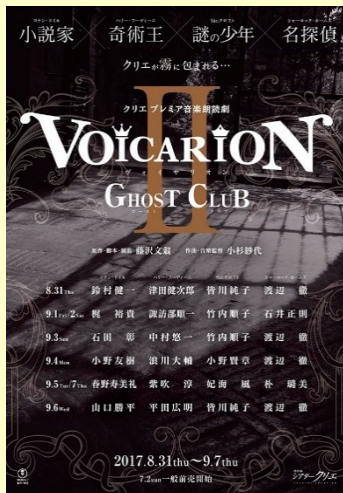
STAGE LINE UP



2017年7月~8月
帝国劇場公演
『ビューティフル』



2017年8月 シアタークリエ公演
『GACHI ~全力entertainment4U~』



2017年8月~9月
シアタークリエ公演
『ヴォイサリオンII
~ゴーストクラブ~』



2017年10月~11月 帝国劇場公演
『レディ・ベス』

業績予想

2018年（平成30年）2月期連結業績予想（平成29年3月1日～平成30年2月28日）

第1四半期が好調に推移したことを踏まえ、且つ、今後の業績動向を勘案し、期首の業績予想を修正いたしました。

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株あたり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円. 銭
第2四半期	135,000	17.4%	29,000	18.8%	29,900	19.4%	20,700	24.8%	114.52
通期	235,300	0.7%	45,000	-10.4%	46,900	-9.0%	32,200	-3.2%	178.14

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではございませんのでご了承ください。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ
東宝株式会社
総務部 広報・IR室
TEL 03-3591-1303